

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

秋田公立美術大学附属高等学院

1 本年度の学校評価をふりかえって

今年度の「生徒アンケート」では、「精神的な成長」「ボランティア活動」の向上の自覚が顕著であり、本学院の地域協働活動である、ビダライフデザインラボを中心とした、諸活動の成果と捉えることができる。今後も、地域学校協働委員会のご協力をいただきながら、地域の諸行事やボランティア活動等に参加し、生徒の成長に貢献していきたい。

学校行事では、学院祭や学校創立70周年記念行事などにおいて、生徒の活躍の場面を意図的に設定することで、自己肯定感を高め、自己有用感の醸成を図ることができた。また、生徒作品展「明日のクリエイターたち」では、1,000人近くの来場者を得ることで、生徒の日頃の制作活動を作品を通して理解いただくとともに、次の活動への励みとなる評価をいただくことができた。

生徒、保護者アンケート共に、「進学指導」「生徒作品展」「秋田公立美大との連携」について、学校の取組の充実を期待する回答が見られたことから、次年度は、より一層成長の成果が図られるよう、内容の充実を図っていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	自己有用感を育む教育活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・美大附デザインラボを中心に、依頼に基づいたデザイン制作や、造形力を生かしたボランティアなど、数多くの様々な地域協働活動を通じて自己有用感の育成に取り組んだ。生徒が自信をもって作品をプレゼンしたり、相手を意識して交流の内容を企画したりする様子が見られるなど、生徒の意欲や資質向上にもつながった。 ・以前から継続的に取り組んでいるものの他に、新規で始まる活動もあるため、年間の見直しをもちにくいことが課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相互利益の考え方を基に、生徒の自己有用感を育む地域協働を今後も継続する。 ・見通しやゆとりをもって活動できるよう、担当するプロジェクトの数や業務量に大きな偏りが出ないように役割分担をしたり、年間に扱えるプロジェクトの数的な目安を設けるなどして調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に多くの取り組みがなされていることに感心すると同時に、生徒や教職員の負担になっていないかが若干心配である。地域協働が、生徒の学習にとって本当に成果を上げているのかを改めて検証し、限られた時間の中でも効果的な活動となるよう、調整することも必要ではないか。
	主体的な進路選択を目指す計画的・組織的な進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・7校時の授業を廃止したことで委員会や行事などの特別活動に取り組める時間が確保でき、生徒や教員の負担感を低減することにつながった。 ・コロナ禍の影響で学外講師の活用など多様な学習の機会が縮小される傾向が続いていたが、少しずつボランティア活動や行事、外部講師を招いた講義などを開催できるようになってきた、様々な活動を通して進路への意識を高めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で新たな学習指導要領に対応した授業計画を進めるとともに、教務部として適切な授業時数の確保や調整に努める。 ・卒業生やPTAなどの学外の方の話聞く機会を設けるなど、より教育効果の高い活動を取り入れ、生きる力や社会人基礎力を高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が忙しそうにしていると生徒が質問などがしにくいと思うので、多忙感を抑える工夫は継続してほしい。 ・大学や専門学校など上級学校への進学率が高い。そんな中、就職する生徒も一定数おり多様な進路実現ができています。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動において、複数教員による支援を心掛け、個に寄り添うように配慮してきた。生活満足度調査、他を認め合う対話的な学びの推進等によるいじめの未然防止、アンケート調査等によるいじめの早期発見に努めた。 ・いじめ事案はなく、アンケートでは98%の生徒が周囲と良好な関係を築いていると回答している。集団の中で過ごすことを苦手とする生徒が一定数おり、人間関係の把握に努め、よりよい関係づくりに一層配慮していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初の特別研修等を活用し、コミュニケーションスキルを高めるワークショップを実施する。 ・互いのよさを認め合う学習活動を推進し、自己有用感の高揚を図る。 ・インターネットやSNSを適切に使用できているか振り返らせ、より主体性をもってメディアを活用する態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい学級と分かる授業を基盤として、集団の中にルールとリレーションを構築できていることが、いじめの少なさに表れていると推測する。今後も、地域社会や家庭との連携を密にして、学校生活に対する生徒の満足感を向上させることで、いじめの未然防止に努めてほしい。
家庭・地域との連携	社会性を育む地域協働活動(美大附デザインラボ)の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、春の地域のイベントとして「ものまちさんぽ」に清掃活動やサポートスタッフとして関わることができた。また、太平中学校の閉校プロジェクトとして、「黒板アート制作」に携わり、生徒がアイデアから制作までを担当し、地域と協働しながら生徒たちの自主性や自己肯定感を高める活動を増やすことができた。 ・事業やプロジェクトが多すぎるのではないかと指摘があり、今後は事業やプロジェクトの精選に努めたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組んでいる事業やプロジェクトについては、担当する教員の分担を進めて実施をしていく。 ・新規プロジェクトについては、年間スケジュールに併せて、時期や内容の精選を進め、他の業務に支障を来すことがないように計画・実施を進める。 ・できるだけ多くの生徒が携われるように、学校として取り組むべき内容の検討も進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業やプロジェクトを抱えすぎているのではないか。 ・年間に取り組む事業数を決めて取り組んだり、今年度のプロジェクトについて期限を決めて相談を受け付けるなど、学院が事業を選んでも良い時期なのではないか。
	秋田公立美術大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教員の連携授業(3回)では、大学の講義室を借用し、大学の講義を体感するような形で実施することができた。また、美大生による連携授業では、話を聞くだけでなく、グループに分かれて気軽に質問できる形にすることで、進路選択や高校生活に関するアドバイスなどももらうことができた。 ・本校70周年記念作品展では、賛助出品していただいたり、大学10周年記念のイベントの美大・附属合同展覧会やワークショップなどで連携したりすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの行動制限緩和と大学開学10周年により、大学教員や大学生の活動に関わる機会が増えると考えられる。より一層連携を強めることで活動や作品から刺激を受けて専門性を高め、大学と共に地域・社会・文化に貢献できる人材の育成に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立美大との連携により、生徒の専門性を高めるだけでなく、地域・社会で活躍できる人材を育む機会としての期待も強い。